

# AVR123 : AT90PWM81/161 A/D変換、対温度最適化

## 要点

- 温度に対するA/D変換結果の最適化
- A/D変換器に内部VREF使用時のATMEL® AT90PWM81/161に適用可

## 1. 序説

AT90PWM81/161は10ビット逐次比較A/D変換器(ADC)が特徴です。このADCは以下を提供する15チャンネルのアナログ多重器に接続されています。

- ・ 0V(GND)を参照する11点のシングル エント'入力。
- ・ A/D変換に先立って差動入力電圧で14dB(×5)、20dB(×10)、26dB(×20)、32dB(×40)の増幅段階を提供する設定可能な利得段とでなる2つの差動電圧入力の組み合わせ。増幅されたチャンネルに於いては8ビット分解能が期待できます。

この応用記述は温度に関してA/D変換結果を再調整する方法を説明します。

## 2. 動作の理屈 – A/D変換

### 2.1. VREF制御

A/D変換器(ADC)用の基準電圧(VREF)はADCに対する変換範囲を指示します。それは以下のどれかとして選択することができます。

- ・ AVCC
- ・ 内部2.56V基準電圧
- ・ 外部AREFピンに存在する電圧

2.56Vの内部基準VREFはハントギャップ電圧から乗算後に生成されます。

### 2.2. VREF校正

この内部電圧基準は温度の関数です。

これは2.56V基準電圧の±1%の精度内で3Vと周辺温度の工場で校正されます。この校正の結果は識票列に格納されます。この最終検査" Amb.VREF"は(語)アドレス\$1Eに設定されます(ATMELの90PWM81/161データシートもご覧ください)。

尚、工場に於いてVREFレベルの読み取りは105°Cで成し遂げられます。この値も識票列に格納されます。この最終検査" Hot VREF"は(語)アドレス\$1Fに設定されます。

### 2.3. A/D変換

シングル エント'変換に関して、その変換結果は以下です。

$$\text{ADC読み取り値} = \text{Vin} \times 1023 / \text{VREF}$$

ここで、Vinは選択した入力ピン上の電圧、VREFは選択した基準電圧です。

## 3. 補償方法

ATMEL AT90PWM81/161マイクロ コントローラは組み込み温度感知器を提供します。この特徴は電圧基準での温度変動の走行時補償に使用することができます。

### 3.1. VREF 対 温度

以下の例に於いて、VREF曲線の頂上を可能な最高温度に移動する電圧基準温度係数校正レジスタ(BGCRR)の既定形態設定を考察します。この形態設定ではより高い温度がより高いVREFになります。



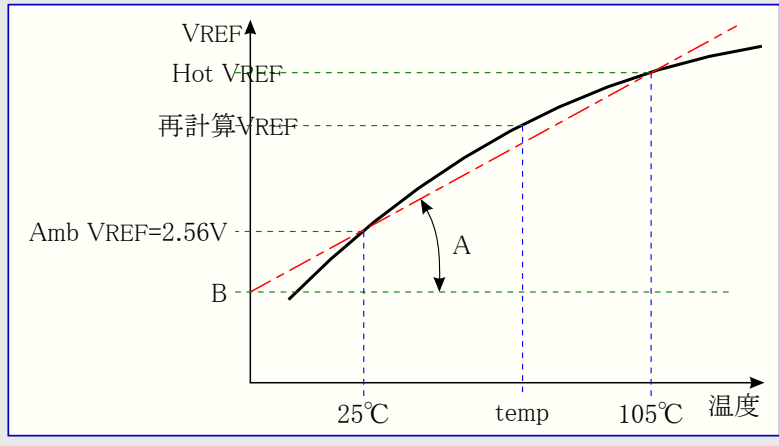
8ビット ATMEL  
マイクロ コントローラ

## 応用記述

本書は一般の方々の便宜のため有志により作成されたもので、ATMEL社とは無関係であることを御承知ください。しおりのはじめにでの内容にご注意ください。

Rev. 8270B-01/12, 8270BJ1-10/13

図3-1. VREF 対 温度



**注:**

1. Amb VREFは校正(±1%精度)に依存して厳密に2.56Vと等しい必要はありません。
  2. Amb VREFは±1%精度、25°Cでの2.56Vに等しい工場で校正された値です。Hot VREFは工場に於いて105°Cで読まれた値です。
  3. Amb VREFとHot VREFは工場での検査操作中に識票列に格納され、ソフトウェアによって読むことができます。
  4. 最終検査Amb VREFはアドレス\$3D(上位バイト)と\$3C(下位バイト)の2バイトに設定されます。
  5. 最終検査Hot VREF(読み込み専用)はアドレス\$3F/\$3Eの2バイトに設定されます。
- これらの定数はmVでの16進電圧値で、例えば\$0A00は2560mVの16進値を表します。

**3.2. 温度測定**

この実装はAT90PWM81/161の組み込み温度感知器とで達成される測定を用います。温度感知器が選択されているなら、温度測定式は次の通りです。

$$\text{Temp}(\text{°C}) = ((([\text{ADCH} \ll 8 | \text{ADCL}] - (273 + 25 - \text{TSOFFSET})) \times \text{TSGAIN}) / 128) + 25$$

TSGAINとTSOFFSETは工場での検査操作中に識票列に格納されます。温度感知器変移(TSOFFSET)はアドレス\$05の上位バイトに設定されます。デバイス温度感知器利得(TSGAIN)はアドレス\$07の上位バイトに設定されます(代表値は\$80)。

**3.3. VREF再計算**

25°Cと105°C間でVREF曲線対温度範囲は直線として推定することができます(図3-1をご覧ください)。VREF全体に渡る精度を改善するために、再計算VREFは以下として計算することができます。

$$\text{再計算VREF} = (A \times \text{Temp}) + B$$

直線の既知の点は次の通りです。

$$\begin{aligned} \text{Amb VREF} &= (A \times (25\text{°C})) + B = \text{識票バイトに格納されたデータ} \\ \text{Hot VREF} &= (A \times (105\text{°C})) + B = \text{識票バイトに格納されたデータ} \end{aligned}$$

AとBの変数はこれら2つの式から求めることができます。

**3.4. A/D変換測定補償**

A/D変換の測定結果は次式で補償することができます。

$$\text{補償したA/D変換値} = \text{A/D変換読み込み値} \times \text{再計算VREF} / 2.56$$

**4. ハードウェア形態設定**

**4.1. AT90PWM81/161**

5つのデバイスが試験されました。それらのヒューズ形態設定は次の通りです。

- 拡張ヒューズ = \$FD
- ヒューズ上位バイト = \$D9
- ヒューズ下位バイト = \$CC

## 4.2. STK521

クリスタル : 8MHz  
 VREFの監視 : AREF出力/VSS  
 UARTソフトウェア出力 : RS232インターフェースに接続されたPB0

## 4.3. ハイパーターミナル

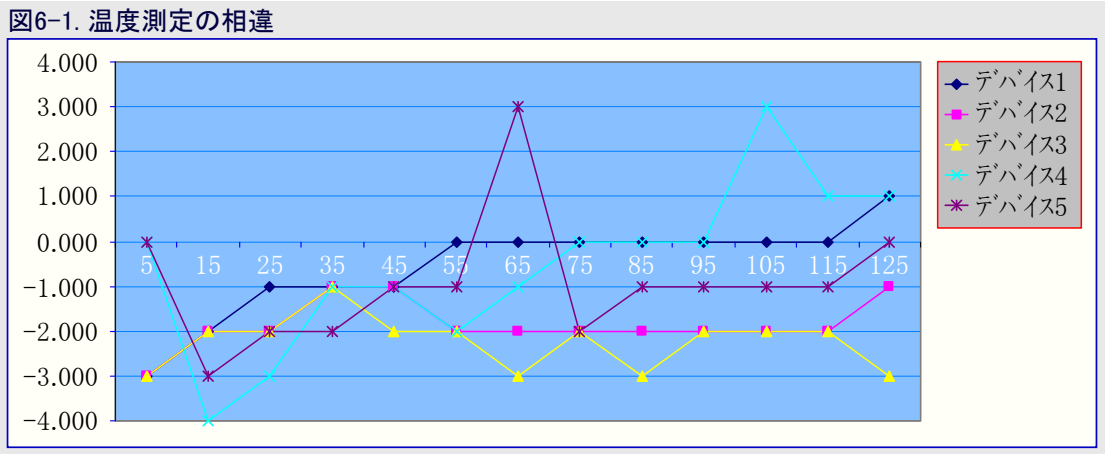
UARTビット速度 : 19200bps

## 5. ソフトウェア形態設定

8章の(IARでコンパイルした)「コード例」をご覧ください。

## 6. 温度測定の結果

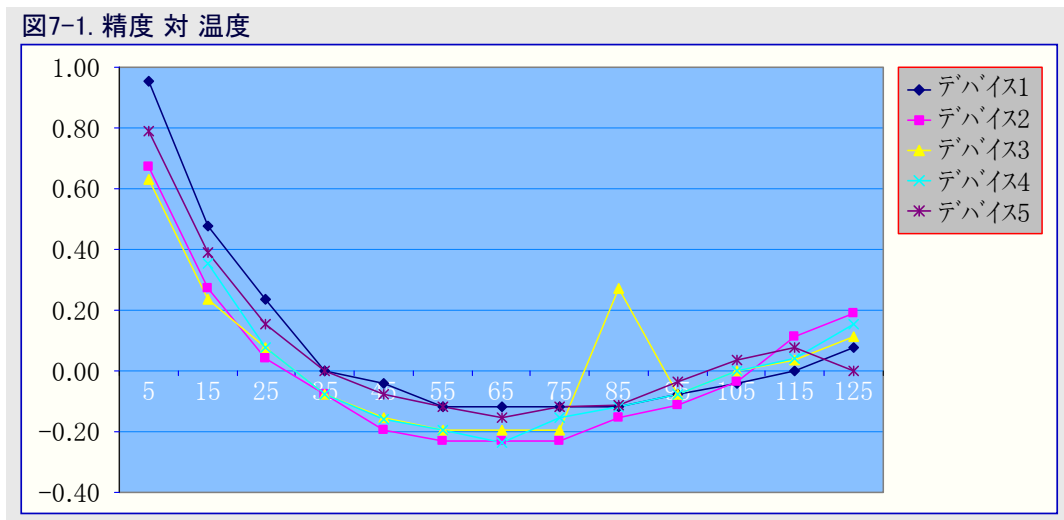
図6-1.の図は調べた5つのデバイスに関して温度測定の差が+4°Cであることを確かめます。



## 7. VREF再計算の結果

図7-1.の図は温度範囲に渡る実際のVREFに対する再計算したVREFの精度(%)を提供します。

$$\text{精度} = (\text{再計算したVREF} - \text{VREF出力監視}) / \text{VREF出力監視}$$



これらの代表的な結果は+5~+125°Cの温度範囲に渡って再計算の精度が1%よりも良いことを確かめます。

## 8. コード例

### 8.1. C Main関数

```

//! //! Copyright (c) 2009 Atmel.
//! このプログラムは以下に対して繰り返しを使用します。
//! - 温度感知器の監視
//! - 実際内部VREFと等しくあるべきVREFの計算
/

//_____ インクルード _____
#include "config.h"
#include "iopwm81.h"
#include "my_print.h"

//_____ 宣言 _____

#define HIGHBYTE(v) ((unsigned char) (((unsigned int) (v)) >> 8));
#define LOWBYTE(v) ((unsigned char) (v));

int main(void)
{
    unsigned char gain, offset, temp, vref_amb_low, vref_hot_low, vref_amb_high, vref_hot_high, result;
    unsigned int vref_recalc, vref_amb, vref_hot, n;
    char g, i;
    float a, b;

    PORTB = 0x00;
    DDRB = 0xC7;
    ADCSRA |= 0x80; /* ADEN=1 */
    ADMUX |= 0x80; /* VREF=2.56V */
    ADMUX &= ~0x2F;
    ADMUX |= 0x0C; /* MUX=温度感知器 */
    ADCSRB = 0x80; /* ADC高速動作 + 自由走行(連続変換動作) */
    ADCSRA |= 0x04; /* 16前置分周A/D変換クロック */
    ADCSRA |= (1<<ADSC); /* 初回変換開始 */

    while (SPMEN==1);

    asm("LDI R17, $00"); /* 識票列内の温度感知器OFFSET読み込みLPM手順の始まり */
    asm("LDI R16, $05");
    asm("MOV R31, R17"); /* */
    asm("MOV R30, R16"); /* ;Zポイント(R31=ZH R30=ZL)にアドレス設定 */
    SPMCSR=0x21;
    asm("LPM"); /* ;識票列から温度感知器OFFSET値読み込み */
    asm("MOV R16, R0"); /* ;温度感知器OFFSET値をR16に複写 */
    asm("OUT 0x1B, R16"); /* ;温度感知器OFFSET値をGPPIOR2に複写 */
    while (SPMEN==1);
    offset=GPPIOR2; /* 温度感知器OFFSET値戻り値設定 */

    asm("LDI R17, $00"); /* 識票列内の温度感知器GAIN読み込みLPM手順の始まり */
    asm("LDI R16, $07");
    asm("MOV R31, R17"); /* */
    asm("MOV R30, R16"); /* ;Zポイント(R31=ZH R30=ZL)にアドレス設定 */
    SPMCSR=0x21;
    asm("LPM"); /* ;識票列から温度感知器GAIN値読み込み */
    asm("MOV R16, R0"); /* ;温度感知器GAIN値をR16に複写 */
    asm("OUT 0x1A, R16"); /* ;温度感知器GAIN値をGPPIOR1に複写 */
    while (SPMEN==1);
    gain=GPPIOR1; /* 温度感知器GAIN値戻り値設定 */

```

```

asm("LDI R17, $00"); /* 識票列内のAmb.VREF(下位バイト)値読み込みLPM手順の始まり */
asm("LDI R16, $3C"); /* */
asm("MOV R31, R17"); /* */
asm("MOV R30, R16"); /* ;Zポインタ(R31=ZH R30=ZL)にアドレス設定 */
SPMCSR=0x21;
asm("LPM"); /* ;識票列からAmb.VREF(下位バイト)値読み込み */
asm("MOV R16, R0"); /* ;Amb.VREF(下位バイト)値をR16に複写 */
asm("OUT 0x1A, R16"); /* ;Amb.VREF(下位バイト)値をGPPIOR1に複写 */
while (SPMEN==1);
vref_amb_low=GPPIOR1; /* Amb.VREF(下位バイト)値戻り値設定 */

asm("LDI R17, $00"); /* 識票列内のAmb.VREF(上位バイト)値読み込みLPM手順の始まり */
asm("LDI R16, $3D"); /* */
asm("MOV R31, R17"); /* */
asm("MOV R30, R16"); /* ;Zポインタ(R31=ZH R30=ZL)にアドレス設定 */
SPMCSR=0x21;
asm("LPM"); /* ;識票列からAmb.VREF(上位バイト)値読み込み */
asm("MOV R16, R0"); /* ;Amb.VREF(上位バイト)値をR16に複写 */
asm("OUT 0x1A, R16"); /* ;Amb.VREF(上位バイト)値をGPPIOR1に複写 */
while (SPMEN==1);
vref_amb_high=GPPIOR1; /* Amb.VREF(上位バイト)値戻り値設定 */

asm("LDI R17, $00"); /* 識票列内のHot VREF(下位バイト)値読み込みLPM手順の始まり */
asm("LDI R16, $3E"); /* */
asm("MOV R31, R17"); /* */
asm("MOV R30, R16"); /* ;Zポインタ(R31=ZH R30=ZL)にアドレス設定 */
SPMCSR=0x21;
asm("LPM"); /* ;識票列からHot VREF(下位バイト)値読み込み */
asm("MOV R16, R0"); /* ;Hot VREF(下位バイト)値をR16に複写 */
asm("OUT 0x1A, R16"); /* ;Hot VREF(下位バイト)値をGPPIOR1に複写 */
while (SPMEN==1);
vref_hot_low=GPPIOR1; /* Hot VREF(下位バイト)値戻り値設定 */

asm("LDI R17, $00"); /* 識票列内のHot VREF(上位バイト)値読み込みLPM手順の始まり */
asm("LDI R16, $3F"); /* */
asm("MOV R31, R17"); /* */
asm("MOV R30, R16"); /* ;Zポインタ(R31=ZH R30=ZL)にアドレス設定 */
SPMCSR=0x21;
asm("LPM"); /* ;識票列からHot VREF(上位バイト)値読み込み */
asm("MOV R16, R0"); /* ;Hot VREF(上位バイト)値をR16に複写 */
asm("OUT 0x1A, R16"); /* ;Hot VREF(上位バイト)値をGPPIOR1に複写 */
while (SPMEN==1);
vref_hot_high=GPPIOR1; /* Hot VREF(上位バイト)値戻り値設定 */

vref_hot= (vref_hot_high *256) + vref_hot_low;
vref_amb = (vref_amb_high * 256) + vref_amb_low;
a=(vref_hot - vref_amb)*100;
a = a / 0x50;
b= vref_amb - ((a * 0x19)/100);

```

```

while(1)
{
  while (ADIF == 0);
  ADCSRA |=0x10; /* ADIFリセット */
  temp =ADCL;
  result =(ADCH<<8);
  result = result | temp;
  result = result - (273+25-offset);
  temp = gain / 128;
  result = result * temp;
  temp = result +25;

  putchar(0x54);putchar(0x3D);print_hex(temp); /* "T=..."16進形式で測定温度送信 */

  for(i=1;i<100;i++); putchar(0x0D); for(i=1;i<100;i++); putchar(0x0A);

  vref_recalc = ((a * temp)/100) + b); /* 測定温度に対して再計算されたVREFを取得 */

  putchar(0x41);putchar(0x3D);
  print_hex(vref_amb_high);
  print_hex(vref_amb_low); /* "A=..."16進形式でAmb.VREF送信 */
  for(i=1;i<100;i++); putchar(0x0D); for(i=1;i<100;i++); putchar(0x0A);

  putchar(0x48);putchar(0x3D);
  print_hex(vref_hot_high);
  print_hex(vref_hot_low); /* "H=..."16進形式でHot VREF送信 */
  for(i=1;i<100;i++); putchar(0x0D); for(i=1;i<100;i++); putchar(0x0A);

  putchar(0x52);putchar(0x3D); /* "R=..."16進形式で再計算VREF送信 */
  temp=HIGHBYTE(vref_recalc);
  print_hex (temp);
  temp=LOWBYTE(vref_recalc);
  print_hex (temp); /* "R=..."16進形式で再計算VREF送信 */
  for(i=1;i<100;i++); putchar(0x0D); for(i=1;i<100;i++); putchar(0x0A);
  for(n=1;n<10000;n++)
  {
    for(i=1;i<100;i++); /* ハイパーターミナルでの表示を改善するために遅延 */
  }
  ADMUX |=0x0C;
  ADCSRA |= (1<<ADSC); /* 温度感知器での新規変換開始 */
}
}

```

## 8.2. ソフトウェア UART関数

```

#include "my_print.h"
void print_hex(unsigned char n)
{
  unsigned char i;
  i=n>>4;
  if(i>9) putchar(i-0x0A+'A');
  else putchar(i+'0');
  i=n&0x0F;
  if(i>9) putchar(i-0x0A+'A');
  else putchar(i+'0');
}

void print_int(unsigned int n)
{
  print_hex(n>>8);
  print_hex(n);
}

```

## 8.3. アセンブリ言語 Soft\_uart.s90

```
// 使用するAT90PWM81/161 MCU用のレジスタ定義をインクルード
#include "iopwm81.h"

PUBLIC    putchar
PUBLIC    soft_uart_init

;***** ピン定義

TxD      EQU      0                ;送信ピンはPDx

;***** 全体レジスタ変数

#define   bitcnt   R16             ;ビット計数器
#define   temp     R17             ;一時記憶レジスタ

#define   Txbyte   R18             ;送信されるべきデータ

RSEG     CODE:CODE:NOROOT(1)

;*****
;*
;* "putchar"
;*
;* このサブルーチンは"Txbyte"レジスタに格納されたバイトを送信します。
;* 使用される停止ビット数はsb定数で設定されます。
;*
;* 語数           : RETを含めて14
;* 周期数         : ビット速度に依存
;* 下位側使用レジスタ : なし
;* 上位側使用レジスタ : 2 (bitcnt, Txbyte)
;* 使用ポインタ   : なし
;*
;*****
sb       EQU      1                ;停止ビット数(1,2,~)

putchar: CLI                       ;全体割り込み禁止
;       LDI      bitcnt, (9+sb)    ;1+8+sb(sbは停止ビット数)
;       MOV     Txbyte, R16
;       LDI      bitcnt, (9+sb)    ;1+8+sb(sbは停止ビット数)
;       COM     Txbyte             ;全ビット論理反転
;       SEC                       ;開始ビット設定

putchar0: BRCC    putchar1         ;対応ビット=0で分岐
;         CBI    PORTB, TxD        ;対応ビット=1で'0'送出
;         RJMP   putchar2         ;次へ

putchar1: SBI    PORTB, TxD        ;対応ビット=0で'1'送出
;         NOP

putchar2: RCALL   UART_delay        ;1ビット時間遅延
;         RCALL   UART_delay
;         LSR    Txbyte            ;次ビットをキャリーフラグへ
;         DEC    bitcnt            ;ビット計数器減数
;         BRNE   putchar0         ;残ビット有りで次ビット処理へ
;                                     ;残ビットなしで、
;         SEI    ;全体割り込み再許可
;         RET    ;呼び出し元へ復帰
```

```

;*****
;*
;* "UART_delay"
;*
;* この遅延サブルーチンはバイトを送受信する時にビット間で必要とされる遅延を生成します。
;* 総実行時間は定数"b"によって設定されます。
;*
;* 3×b+7周期 (RCALLとRETを含む)
;*
;* 語数          :RETを含めて4
;* 下位側使用レジスタ :なし
;* 上位側使用レジスタ :1(temp)
;* 使用ポインタ    :なし
;*
;*****

b            EQU    63

UART_delay:
;           LDI    temp, b
;           NOP
;           NOP
;           LDI    R17, b
UART_delay1: DEC    temp
;           NRNE   UART_delay1
;           RET

;***** ここからプログラム実行開始
;***** 試験プログラム
soft_uart_init:
;           SBI    PORTB, TxD        ;ポートピン初期化
;           SBI    DDRB, TxD
;           RET

forever:    LDI    R18, 0x55        ;'U'
;           RCALL  putchar
;           RJMP  forever

END

```

## 9. 応用記述改訂履歴

頁番号は本資料への参照であることに注意してください。この章の改訂参照は資料の改訂に対してです。

**9.1. 改訂8270A-09/10**     1. 初版、資料2535I-04/08から作成

**9.2. 改訂8270B-01/12**     1. AT90PWM161を追加



## 10. 目次

要点	1
1. 序説	1
2. 動作の理屈 – A/D変換	1
2.1. VREF制御	1
2.2. VREF校正	1
2.3. A/D変換	1
3. 補償方法	1
3.1. VREF 対 温度	1
3.2. 温度測定	2
3.3. VREF再計算	2
3.4. A/D変換測定補償	2
4. ハードウェア形態設定	2
4.1. AT90PWM81/161	2
4.2. STK521	3
4.3. ハイパーターナル	3
5. ソフトウェア形態設定	3
6. 温度測定の結果	3
7. VREF再計算の結果	3
8. コード例	4
8.1. C Main関数	4
8.2. Cソフトウェア UART関数	6
8.3. アセンブリ言語 Soft_uart.s90	7
9. 応用記述改訂履歴	8
9.1. 改訂8270A-09/10	8
9.2. 改訂8270B-01/12	8
10. 目次	9



#### *Atmel Corporation*

2325 Orchard Parkway  
San Jose, CA 95131  
USA  
TEL (+1)(408) 441-0311  
FAX (+1)(408) 487-2600  
[www.atmel.com](http://www.atmel.com)

#### *Atmel Asia Limited*

Unit 01-5 & 16, 19F  
BEA Tower, Millennium City 5  
418 Kwun Tong Road  
Kwun Tong, Kowloon  
HONG KONG  
TEL (+852) 2245-6100  
FAX (+852) 2722-1369

#### *Atmel Munich GmbH*

Business Campus  
Parking 4  
D-85748 Garching b. Munich  
GERMANY  
TEL (+49) 89-31970-0  
FAX (+49) 89-3194621

#### *Atmel Japan*

141-0032 東京都品川区  
大崎1-6-4  
新大崎勸業ビル 16F  
アトメル ジャパン合同会社  
TEL (+81)(3)-6417-0300  
FAX (+81)(3)-6417-0370

© 2012 Atmel Corporation. 全権利予約済

ATMEL®、ATMELロゴとそれらの組み合わせ、それとAVR®,その他はATMEL Corporationの登録商標または商標またはその付属物です。他の用語と製品名は一般的に他の商標です。

**お断り:** 本資料内の情報はATMEL製品と関連して提供されています。本資料またはATMEL製品の販売と関連して承諾される何れの知的所有権も禁反言あるいはその逆によって明示的または暗示的に承諾されるものではありません。ATMELのウェブサイトに表示する販売の条件とATMELの定義での詳しい説明を除いて、商品性、特定目的に関する適合性、または適法性の暗黙保証に制限せず、ATMELはそれらを含むその製品に関連する暗示的、明示的または法令による如何なる保証も否認し、何ら責任がないと認識します。たとえATMELがそのような損害賠償の可能性を進言されたとしても、本資料を使用できない、または使用以外で発生する(情報の損失、事業中断、または利益と損失に関する制限なしの損害賠償を含み)直接、間接、必然、偶然、特別、または付随して起こる如何なる損害賠償に対しても決してATMELに責任がないでしょう。ATMELは本資料の内容の正確さまたは完全性に関して断言または保証を行わず、予告なしでいつでも製品内容と仕様の変更を行う権利を保留します。ATMELはここに含まれた情報を更新することに対してどんな公約も行いません。特に別の方法で提供されなければ、ATMEL製品は車載応用に対して適当ではなく、使用されるべきではありません。ATMEL製品は延命または生命維持を意図した応用での部品としての使用に対して意図、認定、または保証されません。

© HERO 2013.

本応用記述はATMELのAVR123応用記述(doc8270.pdf Rev.8270B-01/12)の翻訳日本語版です。日本語では不自然となる重複する形容表現は省略されている場合があります。日本語では難解となる表現は大幅に意識されている部分もあります。必要に応じて一部加筆されています。頁割の変更により、原本より頁数が少なくなっています。

必要と思われる部分には( )内に英語表記や略称などを残す形で表記しています。

青字の部分はリンクとなっています。一般的に赤字の0,1は論理0,1を表します。その他の赤字は重要な部分を表します。